

ま え が き

本書は、発展途上地域における民主主義国——その質をめぐる評価はさておき、複数政党による代議制民主主義の制度が導入されている国——のなかから地域横断的に事例をとりあげ、主に近年の動向に焦点を当てながら、政党、政党政治、政党システムの個別状況の具体的解明と重要な研究上の論点を探索した事例研究の試みである。

いわゆる「第三の波」の民主化を経て、民主主義の制度を採用する国家の数はそれ以前より格段に増えた。このことは、民主主義という観点に照らして、比較対照として考慮されるべき国の数が飛躍的に増大したことを意味する。いまや巨大な一群となった民主主義国というカテゴリーには、民主主義が十分に定着したと考えられる国と、民主主義を新規に導入した、もしくは再導入した国とが混在している。民主主義のあり方を含む、広く国家や政治の様態はまた、往々にして地域的な条件と文脈から大きな影響を受け、けっして一様ではない。

このような状況は、理論研究の立場にとっては、民主主義の包括的な比較が将来的な課題として浮上しながらも、その実現に向けた道のりは必ずしも容易でないことを示唆している。他方、一国に焦点を当てる地域研究的なアプローチにとっても、理論的枠組みがはっきりと定まらないことは、共有可能な形で対象国の独自性を提示することに困難をもたらす。多数の新興民主主義国の誕生は、研究者に新しい問題を突きつけている。

現実の進展に伴って生じた、このような今日的な問題状況を念頭に置いて、本書では、比較研究以前に、まず事例研究の突き合わせという方向性を採用した。各論文でのテーマと分析手法は必ずしも体系的に設定されていないが、これは個別事例の持つ研究対象としての豊かさをできる限り活かし、今

後の研究につながる論点をできるだけ多く摘出することを目指した、編者の狙いに沿ったものである。

本書は、アジア経済研究所地域研究センターの基礎研究事業として、編者が主査となって2007年度から2年間にわたって実施した共同研究会「政治変動下の発展途上国の政党——地域横断的研究——」の最終成果である。この研究会では2年間で合計18回の会合を開催し、のべ7人が海外での現地調査を実施した。2008年3月には中間報告を刊行している（報告書名は共同研究会名と同名。アジア経済研究所ウェブサイトダウンロード可 URL: http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Report/2007_04_15.html）。本研究会の趣旨については、序章に詳しく記したので、そちらも参照されたい。

編者の呼びかけに応じて研究会に参加いただき、毎回活発な議論を展開してくださった委員全員に深く感謝したい。

2009年8月

編 者